

第十二章

實例——模範

我等の氣高き兄弟の飾は、絶えず我等の前に見ゆ、彼等は溫顔と佳言とを以て臥床に於て、又テーパーブルに於て我等を指揮す。

ジョン・スターリング

人身は絞殺せられん、然れども事業は決して絞殺せられず。事業は吾人自覺の内外に不磨の生命を有す。

ジョー・ジ・エリオット

人生に於ける人の行爲にして、之が長き結果の連續を引き起さざるはなし。而して其終りや遡遠にして、人間先見の達する所にあらず。

トーマス・オブ・マルメスベリー

實例は有
力の教師
なり

實例は人を教ふるに舌を以てせざれども最も重要な教育者の一なり。實例は人類の實踐學校なり其活動は實行を以てす而して實行は言語よりも更に力強きものなり。教訓は吾人に道を示すならん然れども吾人は進ま

しむるものは寂として連續し、習慣に依りて吾人に來り、實に吾人と共に住する不斷の實例なり。善き忠言は價值あり然れども善き實例の之に伴ふことなければ其感化力は比較的に小なり。俗諺に所謂「余の言ふ如く爲せ、余の爲すごとく爲すなかれ」とは、人生の實際經驗に於ては正當ならざるを知らる。

行爲の感
化力

耳に依りて學ぶよりは、眼に依りて學ぶ方易し。人皆多少に拘はらず此傾向あり。實際見たることは、單に讀み又聞きたることよりも其印象遙に大なり。少年青年の時は、眼が知識の重なる入口なるを以て、此事殊に然り。小兒は其見たる所を不知不識の間に眞似るものなり。彼等は知らずして周圍の人に似るに至る。恰も昆蟲が其食する木の葉と同色を帶ぶるが如し。故に家庭教育の重要測り知るべからざるなり。

學校の効力如何にもあれ、家庭に於ける實例が未來の成年、成女、今の少年少女の人格を形成するに至大の影響あるなり。家庭は社會の結晶なり。國民品性の核子なり。之を源として純粹にせよ、汚れたるにせよ、公生涯、私生涯を

支配する習慣主義格言等發生す。輿論そのものは多くは家庭より出てしもの最上の博愛は爐邊より來る。パーク曰ひぬ『社會に於て吾人の屬する小隊を愛するは、凡ての公共的博愛事業の萌芽なり』と。此小中心點より人間の同情は四方に波及しつゝ進みて、遂には世界を蔽ふに至る。實に眞の博愛は、慈善と等しく家庭より始まる、而して家庭だけにて止まることは決してこれなきなり。

故に行為の實例は、小事に關してなりと云ふ大なり行為の實例は、絶えず他人の生活中に繰り込まれ、彼等の性質を善にも惡にも造る所以となる。斯くして兩親の性格は、絶えず子供の繰返す所となり兩親が日々表する愛情、訓練、勤勉、自制等の行為は、耳に依りて學びしことが、絶て忘れられし頃にも尙ほ生きて働く。されは一賢人其子を以て我『未來の狀態』と呼ぶを常としぬ。親の無言の行為、無意識の容色さへも、子の人格に印象を附して決して消滅せず。善良なる親を追懷することに依りて敗徳汚行を思ひ止まりたる人、世に幾許ぞや。何人と雖も、其親善良なりしならば、惡事に走り汚想に耽りて

以て失せし親の名を汚すことは敢てせざらん。されば、誠に小なる細事も、他人の品性を感化するに力あり。ウエスト言ひぬ『我母よりの一接吻は、余を作家となしたり』と。人間後來の幸福、成功の據る所實に小兒の時、感受するかゝる細事の方角如何に由る。フオリエル・バクストン、卓越有力の一地位を占め居りし時、母に書を贈りて曰く『余は常に御身が我幼き心に植ゑ給ひし主義の効果を感ず、殊に他人の爲め努力行動し居る時に於て然り』と。バクストンは、一無學者に負ふ所大なりとて、之を想起して感謝するを常とせり。此無學者とは、アブラハム・プラストウと呼ぶ獸園管理者にして、バクストンは、之と共に遊び、酒を飲んだるが、プラストウは一向讀み書きを知らず、たゞ天性の善良と生來の機智とを豊かに有せり。バクストン語りぬ『プラストウを殊に重んぜしめたるものは、其有する誠直、名節の念なり。彼は余の母の居らざる所にて、母の嫌ふことは決して言はず。彼は常に高逸なる誠直を持し、セネカ若くはシセロ(譯者註、共に羅馬の思想家)の文にある如き純正寛厚の情操を以て、其若き心を充たせり。かくの如き人、是れ余の第一の教導者

なりき。而して余は附言す、余の最良の教導者なりきと。』

ラングテール卿は、母の歿したる事實例、良模範を回想して言ひぬ、『若し全世界が天秤の一方の皿に懸かり、我母が他方の皿に懸かりしとせば、全世界の方輕くして上り、必ず母に觸るゝならん』とシメン・ペンニク夫人は、老年に及び、其母が其交はる友人社會に感化を與へしことを想起するを常とせり。ペンニク夫人の母が室に入るときは、直ちに空中の會話の調子を高めたり、道德的空氣を清めしが如く、同席の人皆其呼吸、自由の度を増し、其動作確實の度を増せり。ペンニク夫人は言ひぬ、『母の前にては、其間は、余別人の如くなれり』と。誠にかくの如く、道德的健全が、其呼吸する道德的空氣に由ること大なり。誠にかくの如く、両親の日々の生活が子供の上に感化影響を及ぼすこと大なり。されば両親が子を教育する良法、可ぞやと問は、下の二字にて答へ得べし、曰く、『自身を改善せよ』と。

凡ての行爲は其結果を有す

人間のなせし行爲、發せし言語にして、其結果を將來に及ぼさるるものなし。而して其結果の及ぼす所の遙遠たる人、以て知る能はず。是れ中に崇高嚴

ラスレー
アデンを
論ず

肅の味を有する思想と謂ふべし。言わば我等の生活に色彩を與へ、知らずして周圍の人に感化を與ふ。嘉言善行は其効果直ちに結はずとも、生きて滅するなし。然れども惡言惡行も亦然り。如何に人に知られざる無名の人なりとも、其爲す所が善か惡か何れかの影響を人に及ぼさるるはなし。人の精神は死することなく、尙生きて人間社會に活す。リチャード・コブデンの死せし時、ラスレー氏が衆議院にて述べし言や美なる想なり。眞なる想なり。曰く、『今議會に出席せずとも、尙議員にして、議會の解散に關せず、選舉人の不定心に關せず、又實に時代の推行にも關せざる人あり。コブデンの如きかゝる人物の一人なりと謂ふべし』と。

寔に、現在だけに於ても人の生涯には不死の要素あり。世界に於て、人は一人として孤立するなし。彼は社會と稱する相互影響的制度の一員をなす。故に其行動如何に依りて現在及び將來に於て、人類善事の總額を増し、或は減す。現在は過去に根ざし、吾人が先祖の生活實例は、今尙ほ大に吾人を感化す。同様に、吾人は日々の行動に依りて未來の狀態と特性とを造りつゝあるも

のなり。人は過去の時代、凡ての教養に依りて造られ、熟せしめられたる果實なり。而して現代の人は、最も遠き過去と最も隔てる未來とを結ぶべき行爲、實例の流れを續くるなり。何人の行爲と雖も、全然は死せず、其肉體は解體して塵埃に歸すとも、其善事は後に残りて各、果に果を結び、未來永劫に亘りて後世の人を善惡何れにか感化すべし。人間生存の大危険と大責任とは、此重要嚴肅なる事實に存するなり。

バツペー ジの語

バツペー氏は、其著作に於て、此思想を吐露したり、誠に氣高き語にして、茲に引用する價值あり。氏曰く『各原子は善若くは惡を以て印せられ、哲人聖者の爲したる行爲を保留し、尙ほ無價値低劣なる事共を種々混在聯合しあり。大氣そのものは、一の廣大なる圖書館なり、其各頁に人の言ひし所囁きし所は永久に記されて残る。其文字は不變にして誤謬なく人間の最古の印をも最近の印をも交へ、吾言の果されざるもの、約束の實行せられざるもの皆上に記されて永久に残る。此書籍の各部相合して、茲に人間薄志の證左をなす。若し吾人の呼吸する空氣にして、吾人の發せし感情の誤りなき歴史家な

りとせば、地球、大氣、大洋等皆同様に吾人の爲せし行爲の永久的證人なり。一の動と其反動とは相等しと云ふ法則は、是等にも應用し得、天然の原因に依り、又人間に依りて爲されたる行動は、一として消滅することなし。全能者は、世界最初の殺人者に對し、其額に明にして消えざる印をなして、其罪をあらはせり。故に全能者はまた法則を設け給ひて、後來の殺人者、皆之が印を帶ばざるべからざるやうなせり。

人間の責 任

かくして、吾人のなす行爲、言語、並に吾人の見聞する行爲、言語は一の感化力を有す。此感化力は吾人將來の生活に影響を及ぼすのみならず、社會全體にも影響を及せしむ。吾人は此感化力の如何なる有様に於て子供、友人、知人の間に影響して行爲の源をなすかを知らざるべし。又知る能はず。然れども此力の常に他に働き居ることは毫も疑ふべからず。善模範を出すことの大切に重要な所以、實に茲に存す。——善模範は感せる教訓にして、最貧最微の人にて、日々實行し得べきなり。如何に低卑の人にて、此簡單なれども、價值多大なる教訓を、他人より得ざるはなし。されば、社會的地位に於て下層に

各人善實
例を他人
に負ふ

ありとも、かくして、此低き地位を有用となすを得。何となれば、低處にある光も、山上にある光と同様に、忠實に輝けばなり。何處にても、如何なる境遇の下にありても、其境遇如何に逆運なるも、例へば、沼地の假小屋に於ても、村屋茅舎に於ても、大市街の陋巷に於ても、眞正の人は生ぜん、其墳墓となすにも足らざる程の小地を耕す者にても、數千の人に相續者として忠實に善志を以て働き得。されば誠に小なる工場も、一方に於ては勤勉學術善道德の學校となるべく、他方に於ては、怠惰愚鈍墮落の學校となるべし。そは皆各個人に據り、又善を爲す機會の生ずる時、之を利用するの如何に由れり。

善く費せし生涯、正しく支へし品性は、人之を我子と世上とに遺す遺産として細小にあらず。何となれば、此遺産は道德の敎訓としては最も力あり惡徳の叱責としては最も嚴格なり、又最良種の富の原因として續くなり。詩人ポーブは、ハーヴェー卿の誹毀に對し斯く言ひぬ、『余の兩親は、余をして赤面せしむること決してなかりき、而して兩親の子なる彼譯者註、ポーブ自身を指すは、決して兩親を泣かしめざりき。余は之にて充分なりと思ふ』とポーブの

語らずし
て爲す

如く言ひ得んものは甚だ佳しと謂ふべし。

チゾーム
夫人

何を爲すべしと他人に語るだけにては足らず、實際に行爲の實例を示して、初めて足れりと謂ふべし、チゾーム夫人譯者註、十九世紀、英の慈善家がストウ夫人に成功の秘訣を語りし言は、万人の生活に應用せらる。彼女は曰ひぬ、『余は悟りぬ、若し何事にても爲さんと欲せば、進んで之を爲すべきなり、と單に語るのみにては何等の効なし』とチゾーム夫人單に言説を述ぶるのみに止まりしならば、其志望は言説以外に出づる能はざりしならん。彼女は自ら此事を悟りたり、然るに、人民彼女が實際に行動し實際に成就せしを見たる故に、彼女の意見に贊助して、之を助くるに及びしなり。されば最も有効なる勞作者は、最も雄辯に語る人に、あらず、又は、最も高潔に、思想する人に、あらず、實に、最も雄辯なる行爲を爲す人なり。

精神眞實の人にして、強精なる勞作者たらば、其地位低くとも、善事業の起るに刺戟を與ふること、其地位の低きに比して誠に驚くべきものあり。トーマスライトは、罪人の救済について言説せしのみとせよ、ジョン・バウンズは

貧民學校の必要について言説せしのみとせよ。然らば、彼等何事をか爲し得ん。然れども、二人は空言の士にあらず、たゞ『實行せん、語らざるべし』と云ふ者のみを心中に抱きて、實際の行爲をなせり。世に極貧の人にて、如何に社會に効果を及ぼし得るかを知らんと欲せば、須らくグスリイ博士の言に聽け。博士は、貧民學校設立運動の遊説者にして、卑しきボーン・マスの補靴工ジョン・バウツの實例が博士自身の勞作的生涯に感化影響を與へしことを記せり。曰く、

『余が此主義譯者註、貧民學校設立のことに趣味を抱くやう導かれし事實は、人の運命、人の生涯が、神の攝理に於て、甚だ小なる事情の爲めに決定せられ、影響せらるゝ一例なり。余が初めて貧民學校問題に興味を持ちしは、一の繪畫に由れり。是れ誠に奇なりと謂ふべし。——少くとも、余は之を想ひ起す毎に一種の快趣を覺ゆ。此畫は、トーマス・シャルマースの生地なるフォーース海岸の一選舉市（此市は古くして、人多く知らず、又衰へつゝあり）にあるものなり。余は多年前、此地の見物に赴き、休養のため一飲食店に入りたり。壁上を

見るに、女の牧者の杖を持てる畫、休日の裝をなせる水夫の畫、一ばいに懸かれり。是等は別に興趣を牽かざりき。然れども、爐の上部に印刷せる一畫あり、外の繪畫よりは價あるが如く、一補靴工の室をあらはせり。補靴工は鼻に眼鏡をかけ、膝の間に一の古靴あり、——其廣き前額と引き締れる唇とは、大決斷力の士なるを表し、其茂き睫毛の下よりは、恩愛の光あらはれて、下に坐して此多忙なる補靴工より課業を學び居る貧少年、貧少女の上に及べり』

『我好奇心は起りぬ、余は此繪に於て下の事を知りぬ。此ジョン・バウツが、身ボーン・マスの一賤補靴工にてありながら、大臣の見棄て、施政者の見棄て、紳士淑女亦顧みずして街頭に頽敗せんとする貧少年少女の多數に如何に憐憫を加へたるかを——如何に良き牧人の如く、是等貧苦の流浪者を集めたるかを——額上の汗に依りて、日々の生活を營みながら、如何に彼が五百に餘る貧兒を不幸より救ひて世に戻したるか。——如何にかゝる貧兒を訓練して、神に仕へ世に善をなす人となせしかを。余は余の不敏を羞ぢぬ、余は今日まで爲せし所の小なるを叱責せらるゝやう感じぬ、余はいたく感動しぬ。

余は此人の事業に驚きぬ。余は記憶す、此時感激熱情の餘り、友に次の如く言ひしを、而して余は後心冷靜沈着なる時にても、此言を吐かずば宜しかりきと思ひしことはなし。——曰く此人は人類全體に對して、名譽を附するもの、英國内に今日まで建てし記念碑の總てに勝れる大記念碑を立つべきなり』と。

『余は此人の傳記を取りて讀みたり、而して彼の一生が「全衆に慈惠を有し給ふ基督に依りて、鼓舞せられたるものなるを知れり。尙ほジョン・バウンズは、穎智の人にして、ボールの如く、若し如何にしても貧少年を連れ來る能はざるときは、方策を用ひて連れ來れり。彼は埠頭に立ちて貧兒を捕へ、之を我所に學びに來らしめんと強ゆるを常としぬ。然れども、其強ふるや巡査の如き力を用ひずして、暖き甘藷の力を以て之を爲せり。彼は愛爾蘭人が甘藷を好むを知れり。彼は甚だ暖き甘藷を愛爾蘭人らしき少年の鼻下につきつけて街を走るを常とせり。其衣は襤褸にして貧少年と異なるなし。末日審判の日來りて『名譽に値する者が名譽を得る』ことゝならば、詩人の讚美し、記念

碑を建てられたる多くの人々の中に、彼の如く人を分ち偉人、傑士、優者を後にして、此微々たる老人は前に進み、既に爾曹わが此兄弟の最微者の一人に行へるは、即ち我に行ひしなり。譯者註、新約聖書馬太傳、第二十五章四十節參照と宣ひ給ひし王神の厚き褒言に預らん』と。

品性の教養は、大部は模範の問題なり。吾人は知らず識らず周圍の者の品性、舉動、習慣、意見等に倣ふ。良き規則も人に大功をなさん、されど、良き模範は更に然り。何となれば、模範は人に行動勞作に關する教訓、智能を與ふ。善き忠言をなすも、惡しき實例を示さば、右手にて造りしものを左手にて壞すが如きのみ。故に朋友の選擇には、特に青年に於ては、非常の注意を要するなり。青年各自の間には、一種の磁石力ありて、知らず識らず相互の類似を造り行くものなり。青年は相互に有する同情の爲に其交際する仲間の調子を自ら眞似るものなりと、是れエッヂワース氏の信ずる所にして、從つて氏は青年が最上の模範を選擇する方法を學ぶこと最も重要なりとせり。彼の標語に曰く『二〇〇朋友を有せざるか。或は良友を有するかの二途を採るべし』と。コリング

優者との
交際

ウッド卿も、亦一青年に書を與へて曰ひぬ、『惡き交際をなすよりは、寧ろ孤獨ならんと心懸けよ。朋友には、御身と等しき程の人か、或は以上の人をなせ、人の價値は其友人の價値のために影響せらるればなり。博士シデンハムの有名な格言に曰く、『何人も善人と語りしときは善くなり、惡人と語りしときは惡しくなる』と。サー・ビーター・レリー（譯者註十七世紀、英にありし和蘭の畫工）は拙畫を持つごとあるも、決して之を見ざるを常習とせり。彼は斯くする時は、其筆が確かに其拙畫の影響を受けて低化すると信じたるなり。故に之と同一理にて、低劣なる人間を屢々見、其交際を屢々せば、自己も亦自ら低下して、低劣者と同一になるべし。

交際する
フラ
ンシス・
ホーナー
の意見

ランス
ダグ
ン侯爵
とマル
ヤーマ
ン

故に青年たるもの、常に善人との交りを求め、常に自己以上の標準を目指すを宜しとす。フランシス・ホーナーは、心志高邁、智力聰明の人と交際して利益ありしことを述べて曰く、『余はかく斷言するを躊躇せず、余は良友より心志の改修向上を得たることを、讀了せし總ての書物に勝る』と。シェルバーン卿（後ランスダグンの侯爵となる青年の時、マルシャープ（譯者註十八世紀、佛の

フォー
オエ
ル・バ
ツエ
ク・ス
ト
ンと
ガー
ネ

ジョン・
スター
リン
グの
感化
力

政治家を訪問して大に感ずる所あり、乃ち曰く、『余は今日まで諸所に旅行せしが未だマルシャープに會せし時の如く感激したることなし。余將來何か善益をなすことあらば、其時はマルシャープ氏の精神が余を鼓舞するならんと確信す』と。フォーエル・バツクストンも、亦早年の時、ガーネー家の感化が我が品性の上に大なりしを認めたり。彼はかく言ふを常としぬ、『ガーネー家は、我が生涯に色彩を與へたり』と。ダブリン大學に於ける己の成功に就いて彼はまた曰ひぬ、『余は此成功を以て、余のアルハーム訪問（譯者註、アルハームにガーネー家を訪ひしこと）に歸する外なし』と。彼はガーネー家の人々より自修の習慣を學びしなり。

善と接觸すれば、必ず善を得、又確かに利益を得、こは恰も旅人が草木百花の間を通過して、其衣に之が香を留むるが如し。故ジョン・スターリングと親密なりし人は、皆彼が感化を交友に與へたることを語る。彼に依りて初めて眼醒めて發憤努力せし人多く、彼より、人の何なるか、人は如何にすべきかを學びしも多し。トレンチ氏彼について言ひぬ、『彼の高貴なる資質に接するとき

は、一人として、己が多少に拘らず高められ^{△△△△}挙げられ^{△△△△}たりと感ぜざるものなし。余常に彼の許を去るや、其目的、志望、平生より高められ、其住む空氣平生より清められし如く感ぜり」と、高貴なる品性の働くこと常にかくの如し。吾人は知らずして、品性高き人に高められ、彼と情感を等しうするに至り、同様の眼光を以て、事物を觀る習慣を得、かくの如く心と心とが相働き相反動することは實に魔力の如し。

藝術家も、亦我より勝れる藝術家と交はりて高めらるゝを感ず。例へばハイドンの天才は最初ハンデルに依りて鼓吹せられたり。ハイドン曾てハンデルの奏樂するを聴き、樂曲を草せんとの志燃ゆるが如く起りたり。後ハイドン『創造』と題する名曲を書きしが、若しハンデルの奏曲を聴かざりせば之を書くこと能はざりしならん。彼自らかく信ぜしなり。ハイドン、ハンデルについて語りて曰く『彼の奏するや落雷の如く我心を撲つ』と又曰ひぬ『彼の曲節にして、我が血を湧かしめざるものなし』と。スカーラツケ(譯者註、十七世紀、伊太利の樂曲作者)亦ハンデルの熱心なる賞讃者なり。伊太利中を彼に

行して歩み後、大先生ハンデルについて語るときは、賞讃の印として、十字架形を結ぶを常とせり。眞の藝術家は、互に各自の偉大を認むる寛厚の情あり。ベートーヴェンがチエルビを賞讃せしや正し。彼は又熱心にシューベルトの天才を稱揚せり。彼曰ひぬ『誠にシューベルトには、神火住む』と。ノースコート、青年の時レーノルヅを賞讃すること一通りにあらず。或時レーノルヅ、デヴォン州に下りて、公會に出席せし時、少年ノースコートは、群衆を推し分け、レーノルヅに接近して衣服の裾に觸れたり。ノースコートは曰ひぬ『余は彼が衣服の裾に觸れて、心中に大満足を感じたり』と。——是れ青年の熱心が天才を稱揚欣慕して發する眞正の觸着なり。

勇敢者の實例は、怯懦者を鼓舞す。勇敢者の實例に接しては各纖維の振ふを感ずるなり。されば奇蹟とも稱すべき大勇氣の事業が、勇猛者の指揮の下にある。普通人に依りて屢々成就せらる。勇者の事業を想起するだけにても、喇叭の音の如く人の血を動かす。デスカ(譯者註、十五世紀の人、ボヘミヤの將校)は、死に臨み遺言して曰く、我が皮膚を以て太鼓の革となし、以てボヘミヤ

傳記は高き品性を造るために實し二

人の勇氣を鼓舞せよと、エビラスの王、スカンデルベグ死せし時、土耳其人は彼の骨を獲んと望めり。スカンデルベグは生時大勇氣を振ひ、土耳其人は能く之を知れる。故、彼の骨の一片を心臓の傍に附けて、其大勇猛心の一部を受けんと欲せしなり。勇猛なるドゥ格拉斯が王ブルースの死せる後、其心臓を持して聖地(譯者註、パレスティン地方を云ふ)に至りし時、一人の騎士が多數のサラセン兵に圍まれ、命危きを見、其頸にかけたる銀の箱中に英雄ブルースの心臓を收めたるを外し、之を敵の群中に投じ、叫んで曰く、『平生の如く、戦争の先頭をなせ、ドゥ格拉斯君に續行するか、然らずんば戦死せん』と、かく言ひながら彼の騎士の斃れたる場所に突進して、己も亦戦死せり。

傳記の主要なる効は、其豊かに有する高貴なる『品性の模範』にあり。吾人の祖先は、其生涯も其行爲も記され、殘されて、猶吾人の中に住めるが如し、猶テ一ブルに就きて吾人の傍にあり、猶手を以て吾人を支ゆ。我等の利益のため實例模範を與ふ。此模範は今吾等の學び、賞め、倣ふことを得、まことや、高貴の生涯を送りて、死後之が傳記を遺せしものは、子孫に善の絶えざる源を遺せ

しなり。蓋し、かゝる傳記は、將來の人が己を建つるための模範となり、常に新生命を人に注入し、人を助けて、新生涯を始めしめ、我品性の影響を以て人の品性を造る。故に眞の人の生涯を記せる書物は、貴き種子に充つ。そは尙ほ活ける聲なり、そは一の智力なり。ミルトンの語を以てせば、『そは偉人の高貴なる生血にして、後世子孫の爲めに香氣を附して貯へたるなり。』傳記の書は、常に必ず人を高め、擧ぐる力あり。然れども、茲に百の傳記書に勝る一書あり、最高の實例を充たす(此實例に倣ひて吾等は生涯を形づくるべきなり)此實例は、我等の心意、情操の總ての必要に應ずるを得。吾人は此實例の跡を逐ひて行動感激をなすを得。(譯者註、一書とは聖書のこと、實例とは聖書にある基督の言行を指す。)

未だ太陽を見ざる植木、或は葡萄の如く、

「彼」を夢み、「彼」が居處を想像し、

「彼」に攀ち、「彼」に至らんとて死力を盡くす。

傳記にて
れ、舞せら
れ、人々

青年の士、バックストンや、アーノルドの傳を讀まば、其心意、心情の高まり、

其良決心の強まるを感ぜざることなし、かゝる傳記は、人の爲し得べきとなり得べきもの、如何を例證して、人の自重を増し、其希望を確實にして、其人生の志望を高む。時としては、青年、人の傳記を読み己の價値を發見す。コーレジョウ(譯者註、十六世紀、伊の畫工が、ミカエル・アンジェロの作物を熟察し居りし時、我中に天才の生起することを感じたるが如し。彼は此時直ちに叫びぬ『而して余も亦畫工なり』と。サー・サミュエル・ロミリーは、其自叙傳に於て、偉大にして高潔の心志を有する佛の大法官ダゲッソウの生涯に依りて大に感化せられたる由を記せり。彼は記しぬ『トーマスの著作我手に入りぬ。彼は彼の『ダゲッソウの讃辭』を読み、稱讚の心禁ずる能はず。トーマスの叙述せし此大施政家の名譽ある生涯は、大に我が熱心と志望とを鼓舞し、我が想像に光榮の新路を開きたり』と。

フランクリンは、其有爲卓絶の人となり得しもの、一に少時コットン・マザー(譯者註、十七八世紀、米の神學者、著述家)の『善を爲すことの論』を読みしに由ると云へり。此書は、マザー自身の實際生活より生れ出でたるものなり。見よ、

如何に善き實例模範が、他人に之に模倣する心を起し、延いて其力を後世百代に及ぼし、地上到る處に及ぼすかを、フランクリンは、マザーの感化に依りて起ちたるものなるに、今度は又フランクリンの感化に依りて起ちたるものあり、即ちサミュエル・ドルウは確言して曰く、余は傳記にあるベンジャミン・フランクリンの模範に倣ひて、我が生活、殊に我が事務的習慣を形成せりと。善實例の達せざる處ありや如何。善實例の感化にして終りありとせば、何處に終局點あるべきか。之を肯定せんこと難しと謂ふべし。されば、文藝の事に於て、人生の實際に於て、最良の友と交はり、最良の書物を読み、其中にある最良の事柄を賞讃し、之を模倣すること、如何に大なる利益を生ずるぞや。ダッドレー卿記しぬ『文學に於て、余は最良の書物を読むことを好む。是等は余の舊知の書にして更に更に親密とならんことを欲するなり。余は思ふ、新書を始めて読むよりは、前に讀みし古書を反復する方、たとひ愉快の度は勝らずとも、利益の度は勝る。是れ十中の九まで然り』と。

娛樂の爲めに讀まんとして手に執りたるものにて、人生の氣高き儀表

アルファイ
ーリ
ロヨラ

ルーテル

ウオルフ

カレー

ホーナー

を充たせる書は、今日まで知らざりし新精力を喚起す。アルファイーリは『ブル
ターク英雄傳』を讀みて、初めて熱心文學に入るの志を起せり。ロヨラ、兵卒と
してバムベルナの包圍に従ひ居りし時、脇に大傷を負ひて病臥す。ロヨラ氣
を紛らさんため書物を求めしに、『聖徒の傳記』を得たり。彼之を讀みて感激措
く能はず、乃ち一宗派を建つる爲めに全心を委ねんと決心せり。ルーテルも
亦『ジョン・ハスの生涯及び著作』を讀みて、感激の餘り其大事業開始の決心を
なせしなり。博士ウオルフは『フランシス・ザ・ギア』の傳を讀みて傳道師た
らんと決心せしなり。此書は彼の若き心に最も誠實熱心なる情熱を燃やし、
其生涯の事業に入るの決心をなさしめたり。ウヰリアム・カレー亦『ケプテン・
クックの航海』を讀みて、傳道師となりて高潔なる勤勞をなさんと始めて決
志せり。

フランシス・ホーナーは、最も感動刺激を受けたる書物の名を、日記や書翰
に記すを常とせり。此書名の中にあるものに曰く、コンドウセットの『ハラー
の讃辭』曰く、サー・ジョシュア・レーノルズの『論集』曰く、ベーコンの著作、曰く

バイネットの『サー・マッシュウ・ヘールの事』、『サー・マッシュウ・ヘールの事
共』は、非凡の勤勞を描きたる書にして、ホーナーは之を讀みて心中熱情に充
てりといへり。コンドウセットの『ハラーの讃辭』について彼は曰ひぬ『余かゝ
る人の記事を読むときは、一種刺すが如き鼓動を感ぜざることなし。此鼓動
は賞讃と呼ぶべきか、大望と呼ぶべきか、絶望と呼ぶべきか、余之を知らず』と。
サー・ジョシュア・レーノルズの論集について彼は語りぬ、曰く『余を強く動か
して、自修の途に進ましめしもの、ベーコンの著作を措いては、レーノルズ論
集を第一とす。彼の如きは、偉大に達する道を世に告げんとしして降りたる天
才の最初の一人なり。彼は人間勤勞の全能なるを信ぜしが、此確信は讀者を
して『天才は生來のものにあらずして、生後勤勞に依りて獲たるものなり』と
の思想を抱くに至らしめたり。而して彼が文中には、卓越に對する高き且熱
心なる賞讃の自らにして而も人を動かすものあり。されば、大體に於て、彼の
書は最も人を激勵するものなりと謂ふべし』と。

レーノルズ

レーノルズが藝術研究の燃ゆるが如き志望を起したるは、リチャードソン

ンの記したる一大家(畫工)の傳を讀みたるに由ると、是れ彼の自ら言ふ所なり。而してヘイドンはレーノルズの傳を讀みて美術研究に志したるものなり。かくの如く、一人の勇敢、壯烈なる生涯は、能力と情、感とを同じうする他人の心に、熱火を點ず、而して同様の努力奮勵をなさば、同様の卓越成功を得んこと、殆ど常に然りと謂ふべし。かくして『實例の連鎖』は、時より時に及び、相連なりて其限りを知るべからず。——賞讃は模倣を産み、『天才の眞貴族政治』を永久にす。

例 快活の質

青年に供し得べき實例にして最も價值あり、最も感化を與ふるもの、一は、快活なる勞作の實例なり。快活は精神に反撥力を與ふ。快活の前には妖怪も姿を隠し、困難も絶望を來す能はず。何となれば、快活の士は、困難辛苦に會するに希望を以てし、心は機會を利用せんと樂しき希求を得、而して此希求は常に成功を齎らすものなり。熱情に充つる精神は、健全幸福の精神にして、快活に活動し、又人をして活動心を起さしむ。快活は普通平凡の業務にも高貴を附す。最も効果ある勞作は、勇氣に充ちて爲したる仕事なり。心嬉々た

るものゝ手、又は頭に依りて爲されたる仕事なり。ヒュームは常に曰ひぬ、『余は一年中一萬磅を生ずる土地の所有者となりて憂鬱ならんよりは、常に物の光明面を見て、快活の精神を持たんことを欲す』と。グランゼル・シャープは、奴隸の爲め不屈の勤勞をなし居る間に夜は兄弟の家の遊戲や音曲の合奏に出席して我を慰め、歌を謠ひ、笛、カラリオネット、オーボエ等を吹奏し、日曜の夜の神樂にはハンデルの演奏する時、銅胴の太鼓を打てり。彼は又少しくボンチ繪を描けり。フォーエル・バックストンも亦著しく快活なる人なり。特に野外の遊戲子供と郊外に馬車を驅ること、種々家内の遊戲を共にすること、を好み。

博士アーノルドの感化力

其事業を異にすれども、博士アーノルド亦高貴快活なる勞作者なり。其生涯の大事業なる青年教育を全心全情を盡くして爲せり。彼の傳記には次のことを記せり、『レール・ハム地方(譯者註、アーノルドが青年教育に従事し居りし地方にて最も著しきことは、一般の調子の恐ろしく健全なることなり。新來者は必ず感ぜられ、此處には一の偉大にして熱心なる事業が行はれつゝ、

ありと。學生は皆かく感ずるやう教へられぬ、己の爲すべき仕事あり、又己の幸福も職務も此仕事を能くなすことに存すと。故に青年の人生に對する感情に一種名狀すべからざる熱情が傳へられ、青年は有用の人物となりて幸福を得る方法を知りて、一種の愉悅を感じ、又生命の尊重すべき、己の愛惜すべく自己の使命と事業の重んずべきを教へし彼アーノルドに對して、深き尊敬と熱烈なる愛着とを抱くに至る。是れ皆アーノルドが性格の寛厚、博大、眞實、誠直なるに基因し、又社會全體の爲めに、個人の發達保護の爲めに、彼が如何なる種類の勞作をも尊重せしことに基因す。而も彼の操持には、一の急激なく、一の業務を他の業務よりも重んずるの偏頗なく、偏見を愛重することなし。只勞作は、人の此世に於て命ぜられし使命なりとの、謙虛、深刻、敬虔の自覺あり、己が才能の向ふ所の目的あり、性質の發達と、信仰の向上とに存在する要素あり」と。アーノルドの教育に依りて公人となり有用の生涯を送る者多きが中に、勇敢なるホドソンあり。彼多年の後、印度より本國に送りし書簡に於て、崇敬すべき舊師アーノルドについて曰く「彼の及ぼせし感化力は、

最も永續し、最も效果あり、印度に於ても彼の感化力はこれあり、余はこれ以上を言ふ能はず」と。

サ・ジョ
ン・クレ
アの経
歴

正志、強精、勤勉の人が、其隣人に對し、國家に對して、及ぼしたる感化力の實例としては、サー・ジョン・シンクレアーの生涯最も適するならん。グレゴールは、シンクレアーを以て『歐羅巴に於て最も不屈の人』とせり。彼はもとジョン・オ・グロート・ハウスに近き一大土地の地主の子なり。此土地は波濤荒き北海を前にして、文明の襲撃を受くることなし。シンクレアー十六歳の時、父没し、家産の處理は早く既に彼の若き手に落ちたり。彼十八歳にしてケースネス郡に強大なる改革を行ひ始めしが、此改革は遂に全蘇格蘭に及びたり。

農業は、當時最も幼稚の狀態にあり、田畑には柵なく、土地には溝渠なく、ケースネス郡の小農の如きは、赤貧甚だしくして、馬若くはシエルター（譯者註、シエットランド産の小馬）を保つこと能はず、困難の勞働や荷物の運搬は、主として婦人之を爲し、若し彼等にして馬を失ふときは、最も安價の代理（馬のこと）として妻を娶ることは珍らしからず。此地方には道路なく、橋梁なく、牛羊を

引いて市に賣る人は、南方に赴かんとして、牛羊と共に河を泳ぎ渡る有様なりき。ケースネスに入る主道は、山側の高き懸崖に沿ひ、道は數百尺高き垂直なる斷崖の上にありて、下には海波滔々として物凄し。

サー・ジョン、一介の青年なれども、ベン・チェールトの丘上に新道を開かんと決心せり。然れども、舊態に安んじて改革を嫌ふ老地主等は、疑察輕蔑を以て彼の企圖を見たり。然れども、彼は自ら道路を設計し、夏の或朝二百人の工人を集め、皆同時に働かしめ、彼等の勞働を監督し、自ら例を示して彼等を勵まし、日暮れぬ中に工事を終へたり。即ち馬を引いては通れざる程の、長さ六哩の危險なる惡道は、馬輪も通り得る道となれり。誠に魔術も及ばぬ事なりと謂ふべし。これ周圍の人に、最も健全なる感化を與ふる精力と善勞働との賞讃すべき實例なりき。彼は次に更に新路を開き、水車小屋を建て、橋梁を造り、荒地に柵を造りて開墾したり。彼は又耕耘の良法を紹介し、穀物の運輸を整齊し、稼業を獎勵せん爲めに賞典を頒ち、斯くして彼は忽ち其勢力範圍内の地方全體の活動を敏にし、土地の耕耘者に全く新しき精神を注入したり。

ケースネスは北邊僻陬の地にして、交通不便の荒地——まことに開化の絕域——なりけるが、今や一躍して、其道路、農業、漁業に於て模範とすべき郡となれり。シンクレアー青年の頃は、郵便は脚夫一週に一回配達するのみ。若き従男爵シンクレアーは、當時公言すらく、余は郵便馬車が毎日タルソに來るやうならざる中は死せじと、近隣の人は勿論かゝる事を信ずるわけなく、遂には、ケースネス郡にては、不可能の企畫を呼ぶに、俚諺の如くにかく言へり、『若しサー・ジョンが日々郵便のタルソに來るを見る時來らば其事も亦成らん』と。然れども、サー・ジョンは生ける中に此夢想の實現せらるゝを見たり。日郵便はタルソに來ることゝなりしなり。

彼が博愛的事業の範圍は次第に廣まりぬ。英國產羊毛は、國の重要なる産物なるが、其品質著しく下落するを見て、彼は當時其名知られざる普通の一田舎紳士なるにも拘はらず、直ちに其改善に身を委ねたり。彼は自己の努力に依りて、之が爲めに英國羊毛會社を建て、自費を以て諸國より八百頭の羊の輸入を受け、以て實際的改革の途をなせり。其結果有名なるチエグキオト

種の羊が蘇格蘭に入ることゝなれり。飼羊者は一般に、南方地方の羊は極北（英國の）にて繁殖するを得ずと考へたり。然れども、サー・ジョンは堅忍にして固執しぬ。かくて數年にして三十万頭より少からぬチエヰオト羊が極北の四郡に繁殖する有様となれり。かくして羊を飼ふ土地の價は大に増し、以前は價値少かりし蘇格蘭の土地も、大なる地代を生ずるに至れり。

シンクレアー、ケースネスより國會に選ばれ、三十年間代議士を勤む。此地位は尙ほ更に有用の機會を彼に與へ、彼は此機會を用ふることを忽せにせざりき。ビット氏はシンクレアーが、凡て有用なる公事の計畫に堅忍強精なるを見て、ドゥニング街譯者註、ビットの住む所なり）に彼を招き、如何なる事にも希求する所に好んで助力を與へんと申出でぬ。他の人ならば、自身の利益、自身の立身について願ひしならん。然れども、サー・ジョンの答は自己に關せず、其答は洵に能く彼の特性をあらはせり。即ち、彼は決して愛顧、恩寵を獲んとは願はずと答へ、只、國立農業局の設立に幫助を受けるは、最も喜ばしき由を暗示せり。アーサー・ヤングは、シンクレアーの企畫到底成らずとて之

を嘲り、尙ほ附言して曰く、『御身が計畫の農業局は月球中にあらん』と。然れども、彼は強精事に當りて、遂に此問題に公の注意を牽き、國會の多數を己の賛成者となし、遂に農業局を建て、彼其總裁に任ぜらる。農業局が作業の結果は、茲に説くを要せず。されど、そが農業牧畜業に與へたる獎勵は、忽ち全英國に及び、爲めに千万のエーカーは荒蕪を脱したり。彼は又漁業の確立に盡力して、等しく不撓不屈なりき。漁業は英國産業の重大なる一部なるが、タルソやキックの漁業の建設は、主として彼の努力に依れり。彼はキックに港を建つることの必要を多年論じて、遂に之に成功せり。キックは思ふに世界最大最盛の漁市ならん。

サー・ジョンは、其從事する業務に己の精力を傾注せり。懦弱者を覺醒し、怠惰者を鼓舞し、有爲の者を獎勵し、万人と共に勞作せり。佛國より侵入の様子ありて風雲急なりし時、彼は己の領地内にて一聯隊の兵を起さんことをビットに申出し、而して其言の通りになせり。即ち彼は北方に下り、六百人の一隊を起し、後之を増して一千人とす。これ古來最良の義勇聯隊なりと評され

たり、而して是れ偏に、彼が高貴なる愛國的精神に鼓舞されて起りしなり、シンクレアー、アバリディンなる軍營の指揮官たりし時、蘇格蘭銀行の總裁たり、英國羊毛協會の會長たり、キックスの市長たり、英國漁業協會の總裁たり、大藏省證券を發行する委員たり、グースネスを代表する代議士たり、農業局の總裁たりき。

かく種々の事業に従事せる間にも、彼は餘暇を作りて著述に従へり、此著書だけにても、優に名聲を博するに足る。米國の全權公使ラッシ氏、英國に着せし時、ホークハムのコーク氏に最良の農業書を尋ねてサー・ジョン・シンクレアーの著書を推薦せられたりと語れり。ラッシ氏は又大藏大臣ヴァンシタート氏に英國の財政を論ぜし最良書を問ひしに、復たサー・ジョン・シンクレアーの著書『國庫歲入の歴史』と答へられたり。然れども、彼が不屈なる勤勞の大記念として『蘇格蘭統計記』あり、二十一卷より成る大部の書にして、今日まで世界各國に出でし實用的書類の最も價值あるものの一なり。かくの如き大業は、他人ならば唯恐怖して退縮せんものを、彼は是に依りて其精力を

増し且強めたり、他の事業多き中にて此書の著述は殆ど八年の辛苦勤勞を要したり。此間彼は此問題に關する書簡二萬以上を受けて之を閱讀考察せり。是れ全く愛國的事業にして、自身は之より如何なる種類の利益をも受けず、唯此大事を完成せりと云ふ名譽を得るのみ。此書の利益全部は之を舉げて蘇格蘭の『牧師の子の會』に寄附したり。此書の出版は大なる社會的改善を惹起せり。數個の壓制なる封建的權利、此書は此事に關して公衆の注意を牽けり。は直ちに廢せられ、學校教師や諸處の教會區の牧師の給料は上げられ、蘇國全體の農業に獎勵を與へたり。サー・ジョンは次に同様なる英國統計記を著作出版せんことを公に提言せり。然るに不幸にしてカンターベリーの大僧正、此書が牧師の十分一税に交渉せんことを恐れて、之を許すことを拒み、爲めに彼の企圖は中止となりたり。

シンクレアー一製造業地の大危急の場合に之が救済に盡せしことあり。此時の道口、著く彼が強精敏速を證明す、一千七百九十三年戰爭に由り貨物停滯し、之がために破産するもの一通りにあらず、マンチェスターやグラス

ゴウの第一流の富商にして傾覆せんとするもの多し。是れ財産の缺乏に依るにあらずして、寧ろ金錢融通の路が塞がりしに由る。勞働階級に於ける恐慌の度は甚だ著し。乃ちサー・ジョン議會にて論じて曰く、速に五百萬磅の大藏省證券を發行して信用するに足るべき商人に貸與すべしと。此提議は採用せられ、彼の指名する代議士等と協力して、此企畫を實行したしとの申出も承けられたり。議は夜晩く議院を通過せり、而して政府官人の遲滯を豫期せる彼は、翌朝拂曉倫敦の銀行家に赴き、自己の保證を以て七萬磅を借り出し、此金を此日の夕最も救助を要する商人に渡したり。ビット議院にてサー・ジョンに會するや、マンチエスター及びグラスゴウの焦眉の急を救ふことの意の如く早からざるは遺憾なりと述べ、附言して曰く『余は數日の後ならでは調はざるなり』と。サー・ジョン勝利の答をなして曰く『余は既に調ひたり、今夕の郵便にて倫敦を去る』と。シンクレア後、此話を人に語りし時、喜びの微笑を洩らして言ひぬ『ビットは恰も余に刺されし如く驚きたり』と。

死に至るまで此偉大善良なるシンクレアは有用快活に働き、家族に對

し、國に對して善例をあらはしたり。彼はかく勤勉して他人の善徳を求めたるが、こは彼に彼自身の——富にあらず、彼の寛容はいたく其財産を減じたるなり——幸福満足及び以て知るべからざる平和を齎したり。彼は大愛國者にして偉大なる勤勉力を以て、高潔に國家に對する職分を盡くせり。然れども、彼は其家族を忘れざりき。彼の子女は皆成長して後名譽を得、有用の人となれり。彼八十歳に及びて其子息七人世に出て、一人として負債に陥るものなく、彼に心痛を與ふるものなし。是れサー・ジョンの誇り言ひ得べきことの一なりき。